

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

学校との連携で見えない貧困世帯 の子どもを支援する事業 報告書



平成 29 年 3 月
認定 NPO 法人フードバンク山梨

目次

はじめに	1
まとめ	2
背景と取り組み	3
事業内容	
1 教育機関との連携	4
2 フードドライブ	6
3 食料支援	9
4 子どもたちへの多角的な支援	14
夏休み・冬休みの学習支援	
フードバンクキッチン（バーベキュー）	
5 実態調査	17
子どもの貧困の把握に関する教育機関向けアンケート調査	
考察	18
6 実態調査	19
子どもの貧困の把握に関する支援世帯向けアンケート調査と概要	
7 包括的支援の実施（ヒアリング）	20
8 メディア実績	21
参考	
新聞報道一覧	22
新聞記事	21
成果物	28
参考資料	33

はじめに

子どもの貧困は、今では報道やインターネット、書籍で多く取り上げられ、社会の多くの人達の知るところとなりました。しかし、現状では、NPO等の支援が、支援を必要とする子ども達を特定するまでには至っていません。

この度の助成事業により、フードバンク山梨が全国に先駆けて実施している「フードバンクこども支援プロジェクト」では、行政や学校と連携し、2016年の冬に511世帯1078人の子どもたちへの食料支援、学習支援などを可能にしました。

教師へのアンケート調査では、「弟、妹にご飯を食べさせるため、自分はあまり食べない」「筆記用具を用意できない子どもがいる」「かなりサイズが合わなくなった衣服が見うけられる」「上ばき等もボロボロになっても使うしかない状態」「弁当持参の日にお金がなく弁当が作れないので欠席させるという連絡があった」など、学校現場から貧困家庭の子ども達の厳しい現状が見えてきました。このことで、見えないと言われる困窮する子ども達が学校で見えていたこともわかってきました。

先生は貧困に気づきながらも「保護者のプライドを傷つけていやな思いをさせてはいけない」「家庭からの相談がないと触れにくい」など、家庭に介入ができず悩んでいることも分かりました。日本には「他人に貧困であることを知られたくない」「人の世話にはなりたくない」など、恥の文化があります。そのことが親から先生に貧困であることを相談できない要因となり、対策の推進を阻んでいます。

見えない困窮する子どもへの支援は、学校との連携が必要であり、「フードバンクこども支援プロジェクト」の学校と連携した支援方法が、改めて重要であることが確認できたのではないかと考えています。

学校と親という関係だけでは解決が難しい子どもの貧困問題に、NPO・市民・企業・行政が連携して支援し、困ったときには誰もがSOSを出せる環境を地域社会の中に作っていく必要があります。

本事業を終え改めて、フードバンク山梨は、行政、学校との連携で、見えない子どもの貧困を可視化し、地域に食と心を支える新しい縁を企業・市民との協働で創り出していきたいと思っています。

最後に本事業を助成いただいた独立行政法人 社会福祉医療機構様、そしてご尽力いただいたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

認定 NPO 法人フードバンク山梨
理事長 米山けい子



まとめ

1. 教育機関との連携

- ・中央市、南アルプス市、笛吹市のそれぞれの教育委員会と連携体制を構築し、合計49校を通して食料支援が必要な世帯に申請書を配布する仕組みができた。
- ・申請世帯数は昨年との2.8倍となり行政機関が把握していない世帯の特定につながった。

2. フードドライブ

- ・行政等との連携で14の拠点を作り、市の広報誌などで寄付について広く呼びかけたことで、多くの食品（夏6.2トン、冬5トン）が寄せられた。
- ・ヴァンフォーレ甲府との協働でフードドライブを実施し、多数のサポーターにも活動を周知させることができた。
- ・県立高校や専門学校等17校では、学校内で食品を募るスクールフードドライブを実施し、1.9トンの食品があつまった。

3. 食料支援

- ・夏、冬合せて計733世帯（子ども1566人）に食料支援を実施した。
- ・ボランティア交流会等を積極的に実施し、自発的な取り組みを促したことで386名ものボランティアが箱詰め作業等に集まった。

4. 子どもたちへの多角的な支援（学習支援とフードバンクキッチン）

- ・夏の学習会は、小中学生16名が参加し、元教師や塾講師等10人がボランティアで学習指導を行った。
- ・冬の学習会は参加希望者が増加したことと、「遠くまで送迎ができない」という親からの声を受け、南アルプス市と中央市の2会場を用意して学習支援を実施し、小中学生の26名が集まった。
- ・フードバンクキッチン（バーベキュー大会）は夏休みの間レジャーに行けない親子の楽しい思い出づくりとなった。

5. 教育機関向けアンケート調査

- ・約半数の教員が集金の未納、衣服の汚れなどから、子どもの貧困を把握しているということがわかった。一方、親からの相談は少なく、家庭環境への介入の難しさが浮き彫りになった。
- ・教員は貧困を把握しているが、スクールソーシャルワーカーへの相談件数は少なく、子どもの貧困対策として活用されていない実態も明らかになった。
- ・貧困世帯の子どもは、学習意欲や自己肯定感が低いという回答が最も多かった。

6. 利用者向けアンケート調査

- ・食料支援を利用して改善したことは「家計の負担の軽減」と回答した世帯が最も多く、次に多かったのは、「親自身の不安軽減」であった。

7. 包括的支援の実施（ヒアリング）

- ・貧困の連鎖を防止するために親への就労支援や生活相談を実施し、希望者には積極的に学習支援やフードバンクキッチンへの参加を促した。

8. メディア実績

- ・テレビ報道では日本テレビ「NEWS ZERO」やNHK「Face to Face」などで本事業が紹介された。新聞は61回掲載され、子どもの貧困について社会的認知を高めた。

背景と取り組み

1.背景

当法人は、平成 22 年から行政と連携した「食のセーフティネット事業（生活困窮者への食料支援）」を実施しているが、支援を通じて子どものいる世帯への支援件数が増加していることがわかった。子どもの貧困を予防するには、早期に把握し、支援することが必要であるが、実施するにあたって次のような課題あった。

- (1) 日本における子どもの貧困は見えにくいと言われるように、困窮世帯を特定することが難しい。
- (2) 現在、行政（福祉課等）との連携で食料支援を実施しているが、6 人に 1 人と言われる潜在的な困窮世帯の子どもの把握には至っていない。
- (3) 子どものいる困窮世帯については、食料支援だけでなく、親の生活支援、就労支援を包括的に実施する必要がある。
- (4) 困窮世帯の子どもの夏休み等の学校給食のない長期の休みには栄養価のあるものが食べられない、又は欠食をしやすい状況に置かれている。

上記の課題解決に向けて、新たに教育機関との連携関係を構築し、潜在的な「子どものいる困窮世帯」を見つけ出し、地域と一体となって食料支援、学習支援等の包括的な支援を行うことで、貧困の連鎖を食い止め、子どもの健やかな成長を助けることを目的に本事業を実施した。

2.これまでの取り組み

2015 年の夏には全国初となる「フードバンク子ども支援プロジェクト」を実施した。この取り組みは、学校が長期休暇に入り、給食を食べることができず、十分な食事や栄養がとれずに痩せてしまう子どもたちのために、8 月の毎週（計 5 回）、これまでに食料支援を実施している子どものいる貧困世帯に向けて集中的に食品を配送した。

3.本事業での取り組み

- (1) 新たに、三市の小・中学校とスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、申請書の配布や困窮世帯の特定及び情報提供を依頼した。
- (2) 福祉課、子育て支援課、教育委員会、学校との協働により、これまで特定することが難しかった見えない貧困世帯の子どもたちに食料支援を実施した。教育現場で把握する困窮世帯は、福祉課で把握していないケースもあり、学校との連携により多くの困窮世帯の特定が可能となった。
- (3) 長期休暇中の食料支援に加え、学習支援・交流イベント・親への就労相談等を重層的に実施した。

1

教育機関との連携

1.目的

支援団体や行政も把握していない潜在的な生活困窮世帯の特定と円滑な食料支援実施のために、教育機関との連携体制を構築する。

2.成果

(1) 市・教育委員会・小中学校と連携体制を構築

連携体制を築くにあたって、まず、各市・教育委員会と子どもの貧困対策連携協定を締結した。そして各校に丁寧に事業説明と協力要請をしたことで、本事業への理解と信頼を得ることができた。

(2) 支援体制の確立

就学援助を受けている世帯と教員が困窮世帯ではないかと心配な世帯に食料支援申請書を配布する仕組みが構築できた。

(3) 困窮世帯の把握

多くの生活困窮者世帯の親は子育てと仕事を両立しており、夜遅くに帰宅するなどして時間がないことから、相談する場所や利用できる制度について情報が入らないことがあるが、子どもを通して支援の知らせを受けるため、受動的に当法人の活動や取り組みを知ることができる。また、教員や学校、行政機関に知られることなく、食料支援を受けることができることも大きな利点となり、申請世帯は昨年度の2.8倍にも上り、行政との連携だけでは把握できない見えない困窮世帯の特定につながった。

3.実施日と実施内容

(1) 中央市

日程	実施内容
平成 28 年 2 月 30 日	中央市長訪問
2 月 18 日	中央市教育長・教育総務課長訪問
4 月 8 日	校長会（8校）での事業説明
4 月 14 日～6 月 2 日	各校へ個別訪問
5 月 12 日	子どもの貧困対策連携協定の締結
9 月 29 日～10 月 20 日	教育機関へのアンケート調査実施

(2) 南アルプス市

日程	実施内容
8 月 31 日	南アルプス市教育長訪問
10 月 6 日	南アルプス市教育長へ事業説明
10 月 17 日	校長会（22校）での事業説明

(3) 笛吹市

日程	実施内容
11月15日	笛吹市長訪問
11月1日	笛吹市生活援護課担当者に事業説明
11月25日	校長会（19校）での事業説明
12月5日	子どもの貧困対策連携協定の締結

(4) フードバンクこども支援プロジェクト 連携機関会議

日程	実施内容
平成29年1月25日	教育委員会と福祉課へ事業結果の報告・ニーズ調査を実施

子どもの貧困対策連携協定の締結



中央市・教育委員会



笛吹市・教育委員会

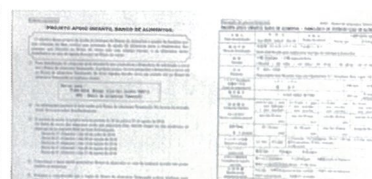
事業説明とニーズ調査



中央市の小中学校 8校に訪問し、上記資料を配布して事業説明を行った。ニーズ調査をした結果、外国籍世帯も多く、日本語を理解できない場合がある事がわかった。

「 PROJETO APOIO INFANTIL BANCO DE ALIMENTOS 」

O objetivo deste projeto de ajuda às crianças do Banco de alimentos é ajudar às famílias que tem crianças na fase escolar que precisam de ajuda de alimentos para o crescimento das crianças que durante as férias de verão não tem almoço escolar, e os alimentos serão distribuídos no mês de agosto durante as férias de verão.



ニーズ調査を踏まえ、申請書をポルトガル版に翻訳した。

2

フードドライブ

1.目的

フードドライブを通じて支援に必要な食品を確保する。また、一般市民に貧困問題を周知し、解決に向けた取り組みへの参加を促すことを目的とする。

2.成果

行政等との連携で15の拠点を作り、メディアで積極的に食品寄付を呼びかけたことで取り組みが周知され、多くの食品が寄せられた。今回、初めてヴァンフォーレ甲府と共同で実施したフードドライブは、サポーターから426kgの食品が寄せられた。また、スクールフードドライブは県立高校や大学17校が校内で食品を集め、取り組みを通して貧困問題を考える機会となった。

3.実施日

日程	実施内容
7月17日～	(1) 食品寄付を呼び掛けるフードドライブ
12月1日 ～12月8日	(2) 全国フードドライブキャンペーン第13回フードドライブ

(1)食品寄付を呼び掛けるフードドライブ

① Jリーグ ヴァンフォーレ甲府とのフードドライブ

ヴァンフォーレ甲府との共同でフードドライブを開催し、426kgの食品が寄せられた。ロータリークラブ、ボーイスカウト、ボランティアによる受付・食品整理などの協力があり、円滑にイベントを進めることができた。ポスターを作成し、会場で掲示することで来場者への活動の周知に努めた。



「ヴァンフォーレ甲府 VS 鹿島アントラーズ」ホームゲーム 山梨中銀スタジアムにて

② 市民・企業・団体からのフードドライブ

企業をはじめ公的機関や各種団体でフードドライブを実施し、4.3トンの食品が寄贈された。市民が直接、フードバンク山梨の事務所に持参した寄贈食品は2.9トンに達した。

フードドライブ実施団体（五十音順）	合計 4343.9kg
東京エレクトロン株式会社	548kg
南部町社会福祉協議会	293.5kg
身延町社会福祉協議会	31.3kg
中央市	203.7kg
甲府南ロータリークラブ	45.9kg
甲府南地域包括支援センター	123kg
ゆうゆうゆう	135.7kg
フードバンク山梨事務所	2962.8kg

③ スクールフードドライブキャンペーン

県立高校をはじめ私立大学や専門学校 17 校でフードドライブを実施し、1.9 トンの食品が寄贈された。生徒が貧困問題を考える機会になり、本プロジェクト終了後も定期的に生徒会やPTAが中心となってフードドライブを呼びかけたり、三者懇談の際に家庭から食品を持ち寄るなどの方法で実施されている。

スクールフードドライブ実施学校（五十音順）	合計 1970.5kg
山梨県立市川高等学校	83.7kg
甲府支援学校	180.9kg
山梨県立甲府西高等学校	88kg
山梨県立市川高等学校	83.7kg
甲府支援学校	180.9kg
山梨県立甲府西高等学校	88kg
山梨県立甲府東高等学校	162kg
山梨県立甲府南高等学校	113.6kg
山梨県立巨摩高等学校	183.5kg
山梨県立白根高等学校	294.5kg
山梨県立韮崎工業高等学校	67kg
山梨県立日川高等学校	128kg
山梨県立身延高等学校	49kg
身延山大学	70.9kg
山梨英和大学	100kg
私立山梨英和中・高等学校	40.8kg
山梨県歯科衛生専門学校	56kg



甲府東高等学校



巨摩高等学校



甲府支援学校

(2) 全国フードドライブキャンペーン、第13回フードドライブの実施
行政機関や社会福祉協議会などの協力で15ヶ所の拠点を設けて12月1日から12月8日
日まで食品寄付を募り、約5トンの食品が寄せられた。



各地に拠点を置くことで、取り組みが定着しやすく食品が集まりやすい



事務所にも多くの食品が寄せられた



企業からはクリスマスリースや学用品の寄付も寄せられた



報告式を実施し、多くのメディアが集まった

1. 目的

2014年に新潟県立大学の村山伸子教授、NHKとの共同で「子どもの食生活調査」を実施した所、支援世帯の7割が1日1人あたりの食費が400円未満で生活していることが明らかになった。栄養バランスに優れた給食を食べられない長期休暇の間、このような家庭では、十分な食事や栄養がとれないために痩せる、体調を崩す等のケースがある。長期休暇中に食料支援を実施することで、子どもたちの欠食を防止し、健やかな成長を助ける。また、食品と共に通信や手紙を届けることで心の交流を図り、社会的孤立を防ぐことも目的とする。

2. 成果

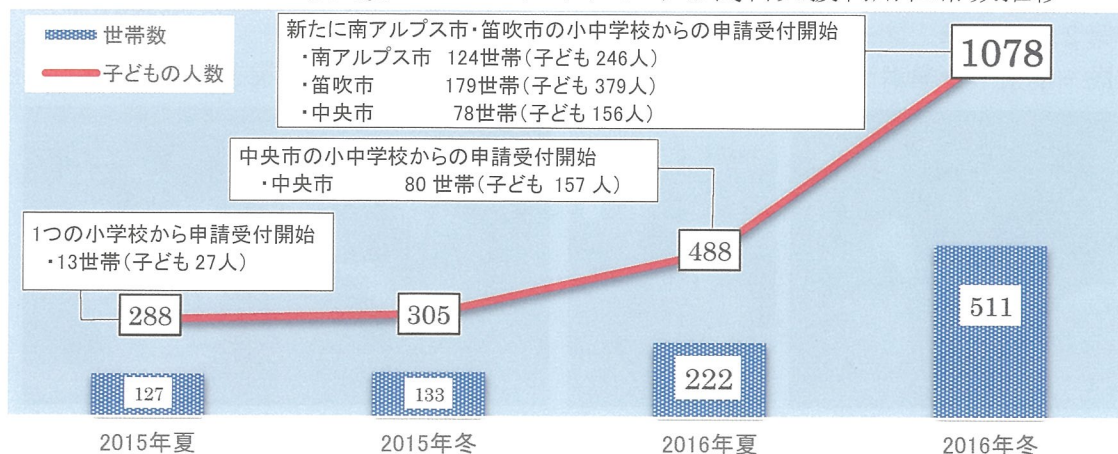
夏、冬合わせて延べ733世帯(2631人)に食料支援を実施した。子どもの貧困の把握に関する支援世帯向け、アンケート調査からも言えるように、多くの世帯が食料支援を利用して家計の負担の軽減ができたと回答し、「いつもは1合しかお米が炊けないが1.5合に増やすことができたり、お菓子や乾物で一品増えたりした」といった記述もあった。また、定期的に食料支援と手紙等による心の交流を実施することにより、親の不安軽減にもつながることが明らかになった。

そして、食料支援を実施するにあたり、多くの協力が必要であったため「ボランティア交流会」を開催して積極的に参加者を募り、冬の箱詰めには約100人以上のボランティアが集まった。

3. 実施日

日程	実施内容
7月30日、8月6日 13日、20日27日	(1) 夏休みの食料支援(毎週土曜日、5回食品発送)
12月23日	(2) 冬休みの食料支援
12月3日	(3) サンタが贈る米魂～おいしいごはんをこどもたちに～
12月23日	(4) ラッピングセレモニー～みんながサンタになる日～

フードバンクこども支援プロジェクトにおける食料支援利用世帯数推移



(1) 夏休みの食料支援

行政機関から申請のあった 120 世帯に連携団体である中央市の学校から 80 世帯が加わり、合計 222 世帯に 7 月末～8 月の毎週 1 回（計 5 回）の食料支援を実施した。申請情報をもとに各家庭の人数や年齢等の状況を見ながら、配送する食料の品目、数量などを決定し、通信や手書きの手紙を添えて宅配した。通信は子どもたちに興味を持ってもらえるような話題を掲載した。

2016 年夏 フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	222 世帯
支援人数	808 人
19 才以下の子どもの人数	488 人（全体の 60%）
母子世帯数	185 世帯（全体の 83%）
食品配送回数	1085 回
学校からの申請世帯	97 世帯
支援食品量	8224 kg（8.2 トン）
延べボランティア参加者数	203 名
協賛企業・団体数	25 企業・団体

食品発送日（毎週土曜日、計 5 回）：7 月 30 日、8 月 6 日、13 日、20 日、27 日

①第 1 回目の箱詰めフードバンクこども支援プロジェクトスタートイベントの実施
約 50 名の市民ボランティアが参加。議員 5 名、南アルプス市長、中央市教育長など行政関係者も集まり、食品の箱詰め作業を実施。場所：白根 B&G 海洋センター



②第 2 回目以降 フードバンク山梨飯野倉庫にて箱詰めを実施
市民・学生・企業ボランティア毎回 20 名前後、宅配日に集まり作業を実施。



1人の小学生を育てる母子世帯

生活の様子やご希望など自由にお書きください

夏休み中のご支援、とても助かりました。いつもいつも生活が大変な時に助けていただきとても感謝しています。
また娘は食べ盛り、育ち盛りで彼女を見る度に、頑張らなきゃと思います。それでも疲れた時などは今日は、いただいたご飯とみそ汁で済ませよう、とそんな事が出来たのもフードバンクのおかげだと感じました。私に出来る事は協力させていただけたいと考えています。

2人の小学生を育てる母子世帯

生活の様子やご希望など自由にお書きください

食品をいっぱいいただきありがとうございます。いつもありがとうございます。いつもありがとうございます。いつもありがとうございます。いつもありがとうございます。

いつも、ありがとうございます。人のためにやさしい気持ち、ありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。

1人の小学生を育てる母子世帯

生活の様子やご希望など自由にお書きください

長々とありがとうございます。すごくありがとうございます。毎回おにぎりやお言葉などイベントとてもはげまになり自分にも自信がつかずまだがんばらなきゃと思っています。

助けられてばかりではなく私も誰かを助けられるくらいになりたいと思います。これからがんばって読んで下さい！

心から感謝いたします。
ありがとうございます

2人の小学生を育てる世帯

生活の様子やご希望など自由にお書きください

子供たちも私も、毎週届く箱を開けるのが、とても楽しみです。普段買わないようなものが入っていて、いつもと違うメニューにする事ができました。

お米や調味料やめん類もとてもありがたかったです。食べ盛りの子供たちが3人もいるので、食費がとてもかかっているのですがこの1ヶ月間は助かりました。本当にありがとうございます。子供たちもすごく喜んでいました。

④箱詰めボランティアの声

実際に各家庭の構成を考えながら箱詰めをしてみて、何を入れたら喜ばれるか、この年齢の方は何を好んで召し上がるのか、を考えて箱詰めができました。自分に何が出来るか、改めて考えるきっかけになりました。

支援を受ける方の声がかかれているので、詰める時に、その家族の事をイメージしながらその人たちのことを考え、箱詰めができました。やはり、そういった人々の声を知ると、こういう現実なんだと実感しました。非常に良い体験になり、今のこの現実を受け止めていき、少しでも力になりたいと思いました。

(2) 冬休みの食料支援

夏の申請世帯に加え、南アルプス市と笛吹市からの学校を通じて寄せられた新規申請を含め 511 世帯に食料支援を実施した。また、普段プレゼントをもらう機会の少ない子どもたちへクリスマスプレゼントを同封した。

2016年冬 フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	511 世帯
支援人数	1823 人
19 才以下の子どもの人数	1078 人 (全体の 59%)
母子世帯数	382 世帯 (全体の 75%)
食品配送回数	511 回
学校からの申請世帯	380 世帯
支援食品量	5365.5kg (5.4 トン)
延べボランティア参加者数	183 名
協賛企業・団体数	30 企業・団体

食品発送日 (計 1 回) : 12 月 23 日 (金)

実施場所: 若草生涯学習センター わかくさホール

(3) サンタが贈る米魂! ~おいしいごはんをこどもたちに~

支援する 511 世帯に送るお米を 2kg ごと袋詰するイベントを実施し、50 人のボランティアがサンタになって 1500 袋を詰めた。この取り組みを計画する時点から多くのボランティアに関わってもらうため、ボランティア交流会を実施するなどの工夫により、多くの参加者を得ることができた。



2 人 1 組で袋詰め作業



子どもたちもボランティアに参加

(4) ラッピングセレモニー ～みんながサンタになる日～

県内外から100人（うち議員4名）が集まり、食品とクリスマスプレゼント（お菓子パック、こども商品券）を箱詰めした。予想以上にボランティアが集まり、その日の内に511世帯分の食品を出荷することができた。協賛企業やスクールフードドライブ参加機関には感謝状を手渡し、日頃の感謝を伝えることができた。メディア6社が取材に訪れ、活動への周知につながった。



県内外から100名以上のボランティアが参加



食品を箱詰めするボランティア



完成した箱が並んだ

①利用者からの声



届いたお菓子をすぐに開けて喜ぶこども

小学生1人を育てる母からの感謝のハガキ

生活の様子やご希望など自由にお書き下さい

今年はxmasプレゼントを用意できず
子どもに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。
ですが、こども商品券を頂き、本人の
好みの物を一箱に買いに行き事が出来た
こともありがたいと思います。
食べ物も嬉しく思います。
お菓子も入ってxmasの日は
素晴らしい気持ちになりました。ホッとしました。
今日の感謝の気持ちを伝えたい。いつか
自分も自立できた時、今度は私たちが家族が
寄付できる側になりたい。と思いたい。こ
れがありがとうございます。

4

子どもたちへの多角的な支援

1.目的

食料支援に加え、学習支援や料理教室での食育など多角的な支援を行い、支援先の子どもが成長した後に貧困に陥ることを防止する。

2.成果

経済的な理由で塾に行けなかったり、親が働くことに精一杯で宿題を見てもらうことができない子どもたち一人ひとりに寄り添った学習支援を実施することで、自尊感情を高め、自信をつける心の支援になった。フードバンクキッチン（バーベキュー大会）は、「夏休みにレジャーにつれていけない」との利用者の声を受けて実施。家族での参加を促し、楽しい夏の思い出作りとなった。

3.実施日

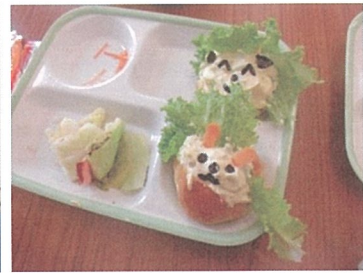
日程	実施内容	参加者
8月10日	(1) 夏休み学習支援	16人
8月21日	(2) フードバンクキッチン（バーベキュー大会）	36人
平成29年1月7日	(3) 冬休み学習会「いっしょに勉強しようよ！」	26人

(1) 夏休み学習支援

参加者は、小学生、中学生の16名。元教師や塾講師10人のボランティアと夏休みの宿題を勉強。昼食は、ポテトサラダ、ロールサンド、スープを作り、食育の話聞きながら食べた。帰りには修了書、お土産、参考書をもらい皆笑顔で帰途についた。



勉強する子どもたち

(株) キューピーの協力で
食育を実施

可愛らしいロールパン

①参加者の声

今日学習会の感想
 ぼくは今日学習会に来てよかったと思いました。
 宿題のプリントをおちノ頭をつかうプリン
 トをもらってよかったです。フードバンクのみなさん
 今日ばてでもあましかったです。ありがとうございました。

(2) フードバンクキッチン (バーベキュー大会)

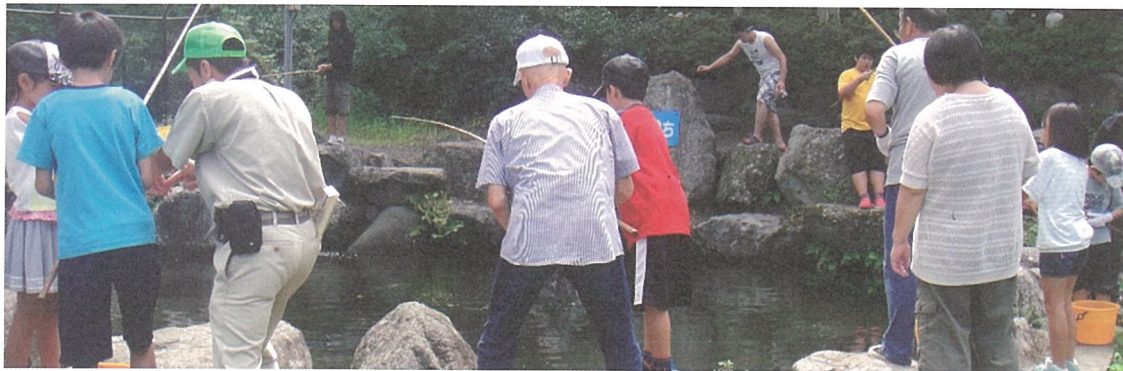
36 名が参加し、バーベキューやニジマス釣り、スイカ割り、水遊びなどを楽しみ、夏休みの思い出づくりとなった。この取り組みを実施するにあたり、甲府北ロータリークラブから食材の準備、ボランティアなどの協力があった。



50 円でできるサラダづくり



お腹いっぱい食べられるようにと用意された食材



家族で鱒釣りに挑戦



スイカ割りで割ったスイカをデザートにした

(3) 冬休み学習支援 「いっしょに勉強しようよ！」

参加希望者が増加したことから、「遠くまで送迎ができない」という親からの声を受け、南アルプス市と中央市の2会場を用意して学習支援を実施。参加者は、小学生、中学生の26人。冬休みの宿題や習字などを楽しく勉強した。昼食は、おかゆ、サンドイッチなどを作り、七草粥などの食育のお話を聞きながら食べた。帰りには修了メダル、パンや菓子などのお土産をもらい皆笑顔で帰途についた。



南アルプス市会場の様子（習字などの宿題にも対応した）



中央市会場の様子



(株) キューピーによる食育の様子

①参加者の声

キューピーさん達がきてお昼ごはんを作りました。
私の女子きなごはん(おかゆ)が出ておいしかったので
自分のおりのなるのおかゆはおいしかったです。
自分のお昼ごはんは、おかゆをおりになるに作れると思います。
宿題は私がかからなかったけど、先生がかかりやすくおしえてく
れたので、良かったです。メモや、いろいろのプリントを先生とやっていて
楽しかったです。

5

実態調査 ～子どもの貧困の把握に関する教育機関向けアンケート～

1. 目的

見えにくい子どもの貧困を教育機関でどのくらい把握できているか、どのような課題があるか明らかにする。

2. 調査方法と結果の要点

調査対象：山梨県中央市の小学校、中学校の教員

調査方法：学校にアンケート票を郵送、各学校ごとに回答をまとめて回収

調査期間：平成 28 年 9 月 29 日～10 月 20 日

回収状況：対象教員数 212、回収数 153、回収率 72.2%

調査結果の要点

1. 約半数の教員が子どもの貧困を把握している

2015 年 4 月から 2016 年 9 月までの期間において、回答した教員のうち、約半数の 47% (71 名) が「子どもが貧困状況にある」と感じた経験が、あると回答。

2. 集金の未納、衣服の汚れなどから貧困に気がつくケースが多い

貧困を把握するきっかけは、「何らかの支払い・集金の未納」が 63.4% (45 名) が最も多く、次いで「子どもの衣服の汚れ・綻び」が 45.1% (32 名) だった。教員は子どもと毎日接しているため、子供の貧困に気づきやすく、支援団体や行政が把握することが出来ない貧困世帯を把握することが可能であると考えられる。

3. 親から貧困について相談をするケースは少ない

貧困を把握するきっかけで、「家庭訪問の際に親から困窮状態について話があった」は 8.5% (6 名)、「家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた」は 7.0% (5 名) であり、親からの相談で貧困を把握するケースは最も少ない事が分かった。

4. スクールソーシャルワーカーが子どもの貧困対策として活用されていない

スクールソーシャルワーカーに相談をした経験がある教員は 2% (145 名中、3 名) であり、相談内容も全て貧困以外の問題に関するものだった。

5. 家庭環境への介入の難しさが浮き彫りに

学校として十分な対応が出来ない理由としては、「プライベートな部分なので踏み込みにくい」、「保護者のプライドを傷つけていやな思いをさせてはいけない」、「家庭からの相談がないと触れにくい」等の意見が多く、家庭介入の難しさが明らかになった。

6. 貧困世帯と思われる子どもは、学習意欲や自己肯定感が低い

貧困世帯と思われる子どもと、そうでない子どもとの比較において、

(1) 「学習意欲が低いと思うか」という問いには、80%の教員が低いと思うと回答。

(2) 「いじめの対象になりやすいと思うか」という問には、45%の教員がいじめの対象になりやすいと思うと回答。

(3) 「自己肯定感が低いと思うか」という問では、73%の教員が低いと思うと回答。

貧困が子どもの学習意欲や自己肯定感に悪影響を及ぼしていることが分かった。

子どもの貧困の把握に関する教育機関向けアンケート調査 考察

国立大学法人 大分大学
福祉健康科学部 講師 川村 岳人

1. 子どもの貧困の把握

子どもが貧困状態にあると感じたのは71名(47.0%)と半数近くにのぼる。自由記述をみると、貧困状態を把握するきっかけとなったのは、子どもの衣服や保護者との関わり、学納金・給食費等の未納、家庭訪問時の状況など多岐に渡る。ここで重要なことは、これらがいずれも教育機関だからこそ知り得た情報である可能性が高いという点である。低所得と社会的孤立には相関があることは多くの調査研究によって指摘されてきたが、その知見を踏まえると、子どもが通う教育機関がその世帯に関わる唯一の公的機関である場合もあると考えられる。本調査の結果は、教育機関が貧困な状態にある子どもや世帯を把握する上で、重要な役割を担うことができる可能性を示唆する結果といえよう。

2. 子どもの貧困への対応

学校として子どもの貧困に十分な対応ができているかという質問に対し、「わからない」が51%、「できていない」「あまりできていない」が計25%となっている。このうち、「できていない」「あまりできていない」と答えた理由をみると、教育機関として教育以外の、しかも家庭のプライバシーに関わる貧困問題にどの程度、またどのように介入しているのか判断しかねている様子がうかがわれる。Iの結果とあわせて考えると、子どもの貧困に気づいても、適切な対応ができずに苦悩する教育機関の姿が浮かび上がる。

また回答者のうち、スクールソーシャルワーカーに相談をしたことがあるという回答はわずか3件にとどまっており、しかも、相談の内容は心理的カウンセリングや虐待、発達など貧困以外のことであった。本調査の結果により、教育現場では貧困問題への介入に難しさを感じている一方、スクールソーシャルワーカーがこうした問題に対処する機関として十分に活用されていないことが明らかになった。

3. 貧困が子どもに与える影響

貧困と思われる世帯の子どもが「宿題への取り組み状況が良くない」という設問に対して「とても思う」「やや思う」という回答が計80%、同様に「学習意欲が低い」が76%、「自己肯定感が低い」が73%となっている。これらはいずれも貧困世帯で育つ子どもの特徴として経験的に指摘されてきたが、本調査ではこうした指摘を追認する結果が示された。これらの結果は、貧困世帯に育つ子どもが学習活動で遅れを取る可能性があることを示唆するものであり、放置をしておけば、子どもの低学歴、ひいては貧困の世代間再生産の要因となることが懸念される。すなわち、本調査の結果は、子どもの貧困という社会問題について、早急に社会的な対策を講じる必要があることを示していると考えられる。

6

実態調査 ～子どもの貧困の把握に関する支援世帯向けアンケート～

1. 目的

生活困窮世帯の現状を、当事者の現在や過去の生活・就労状況から明らかにする。

2. 調査方法と回収状況

調査対象は食料支援利用世帯、調査方法はアンケート票を郵送し回収、調査期間は平成28年12月24日～12月28日。回収状況は以下の通り。

対象世帯数	回収数	回収率
511	171	33.4%

調査結果の要点

1. 調査対象世帯のうち、約3割は子どもが幼いころから生活困窮に陥っている

経済的に苦しいと感じるようになった時期をみると、「第1子出産前」「第1子出産直後」「第1子が幼児の頃」を合せると54名(31.6%)であった。

2. 「自殺したいと思った」と22.2%が回答した

子どもが生まれてからフードバンクを利用する前までの時期に経験したこととして、「カウンセリングや精神面での治療を受けたいと思った」が56名(32.7%)、「過労(極度の疲れ)で寝込んだ」が44名(25.7%)、「自殺したいと思った」が38名(22.2%)であった。

3. 7割近くの世帯が食料を買えなかった経験をしている

昨年1年間、経済的理由で家族のために食料を買えなかった経験は、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせると本調査では67.3%となった。

4. 7割以上の世帯がスクールソーシャルワーカーの役割を知らない

「スクールソーシャルワーカー」について「名称も役割も知らない」人は45.6%で、「役割は知らないが、名称を聞いたことがある」人は30.4%であった。回答者の76%はスクールソーシャルワーカーの役割を知らないことが分かった。

5. 母親の9割は、1ヶ月あたりの収入が20万円未満

父親の50.0%は1ヶ月あたりの収入が20万円未満で、母親の場合は90.1%が20万円未満の収入であった。

6. 食料支援の申請にためらいがあった世帯は約5割

50.9%が食料支援を申請することにためらいが「ややあった」と回答した。次いで「ほとんどなかった」が19.3%で、「まったくなかった」と回答したのは18.1%となった。

7. フードバンクを利用して、約8割の世帯で家計の負担が軽減した

フードバンクを利用して改善したことにおいては、「家計の負担の軽減」の回答が最も多く82.5%であった。次いで「親自身の不安の軽減」が44.4%で、さらに「家庭内の雰囲気」が39.7%となり、「親子の会話の増加」が25.4%と続いた。

7

包括的支援の実施（ヒアリング）

1.目的

食料支援に加え、相談支援を行なうことにより、子どものいる生活困窮世帯の生活の立て直しを支援する。

2.成果

生活相談を実施したり、希望者には積極的に学習支援やフードバンクキッチンへの参加を促した。相談内容については、収入の悩みや子育ての悩みが主で、必要があれば、行政機関の担当者を紹介し、継続的な食料支援につなげた。

3.実施日と内容

電話かけを行ない、必要に応じて生活相談や就労支援を行なった。

日程	性別	年齢	実施内容
6月28日～	男	40歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
7月21日～	女	30歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
7月5日～	女	30歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
4月26日～3月13日	女	30歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
4月26日～3月13日	女	30歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
5月16日～	女	30歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
4月26日～3月13日	女	30歳代	電話後訪問し、生活相談を実施
7月15日～	女	30歳代	電話で生活状況の確認
7月15日～	女	30歳代	電話で生活状況の確認
7月5日～	女	30歳代	電話で生活状況の確認
7月5日～	女	40歳代	電話で生活状況の確認
7月5日～	女	30歳代	電話で生活状況の確認
6月20日～	女	40歳代	電話で生活状況の確認
7月24日～7月29日	女	30歳代	電話で生活状況の確認
7月29日～	女	30歳代	電話で生活状況の確認
6月20日～	女	30歳代	電話で生活状況の確認

日 時	放送局	内 容
2016年5月15日	日本テレビ「真相報道バンキシャ」	フードバンク活動と子どもの貧困
2016年5月24日	テレビ山梨「UTY ニュースの星」	子どもの貧困について
2016年5月31日	NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便」	フードバンク山梨の活動
2016年6月18日	アベマTV「みのもんたのよるズバ！」	フードバンク山梨の活動
2016年7月10日	NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便」	活動について論説の中で紹介
2016年7月20日	山梨放送「ワイドニュース」	フードドライブ
2016年7月26日	テレビ山梨「UTY ニュースの星」	フードバンクこども支援プロジェクト
2016年7月30日	テレビ山梨「ニュースの星」	フードバンクこども支援プロジェクト
2016年10月27日	日本テレビ「NEWSZERO」	フードバンクこども支援プロジェクト
2016年10月30日	NHK 国際放送「Face to Face」	フードバンク山梨の活動
2016年11月2日	NHK 甲府放送局「まるごと山梨」	中央市との連携と取り組み
2016年11月18日	山梨放送「ニュースワイド」	フードバンク山梨企業交流会
2016年12月1日	テレビ山梨「ニュースの星」	第13回フードドライブ開始
2016年12月1日	NHK 甲府放送局「まるごと山梨」	サンタが贈る米魂ボランティア募集



2016年10月7日日本テレビ

『NEWSZERO』

フードバンクこども支援プロジェクトの取り組みと中央市の連携について放映。



2016年10月30日NHK国際放送

『Face to Face』

フードバンク山梨の活動 について約150ヶ国で放映。ロバート・キャンベル氏（東京大学大学院教授）と食品倉庫にて。

新聞報道一覧

日時	新聞名	掲載内容・掲載タイトル
2016年4月15日	産経新聞	食料支援「貧困の連鎖」断ち切る
2016年4月19日	山梨日日新聞	熊本地震被災地へ食料発送
2016年4月19日	山梨日日新聞	小学校と連携、生活困窮世帯に夏休み食料支援
2016年5月13日	山梨日日新聞	中央市とNPO 夏休み中の食事確保へ連携
2016年5月13日	朝日新聞	フードバンク山梨中央市と情報共有
2016年6月14日	読売新聞	広がるフードドライブ
2016年7月18日	読売新聞	ヴァンフォーレ甲府の試合会場でフードドライブ実施
2016年7月22日	山梨日日新聞	山梨英和大学生が生活困窮者への食料品届ける
2016年7月30日	山梨日日新聞	給食のない夏休み 食料送る
2016年7月31日	毎日新聞	夏休み中生活困窮家庭へ食料支援「子どもを笑顔に」
2016年7月31日	読売新聞	子どもの貧困 食で救う
2016年8月1日	朝日新聞	学校給食のない夏休み困窮家庭へ食料送ろう
2016年8月11日	山梨日日新聞	困窮世帯児の学習支援
2016年8月18日	朝日新聞	フードバンク行政と連携
2016年8月18日	朝日新聞	食べ物支援の入り口「フードバンクと連携の自治体」
2016年10月1日	朝日新聞	グッドデザイン賞にフードバンク山梨
2016年10月10日	産経新聞	スーパーで食料寄付、困窮家庭を支援
2016年11月6日	山梨日日新聞	甲府昭和高校 PTA フードドライブを実施
2016年11月28日	毎日新聞	貧困家庭にクリスマスプレゼント
2016年12月10日	山梨日日新聞	子ども貧困対策NPOと連携へ 笛吹市など協定
2016年12月17日	朝日新聞	クリスマス「食」の贈り物
2016年12月18日	山梨日日新聞	「食料支援 自ら活動」 「食品4906キロ集まる」
2016年12月20日	山梨日日新聞	3庁舎の職員らフードドライブ 中央市
2016年12月24日	読売新聞	南アのNPO 500世帯にお菓子など
2016年12月24日	毎日新聞	困窮世帯の子どもたちにクリスマスプレゼント
2016年12月24日	山梨日日新聞	困窮世帯へ食料品 511世帯に発送
2016年12月28日	朝日新聞	フードバンク 子ども支援強化 冬休みに500世帯へ
2017年1月7日	山梨日日新聞	困窮世帯の小中生指導 フードバンクが学習会
2017年2月4日	朝日新聞	子どもの貧困「感じる」47% 教員アンケート
2017年2月12日	毎日新聞	子どもの貧困 教員アンケート5割痛感
2017年3月1日	山梨日日新聞	学校現場での貧困 見える化支援にどうつなぐ

その他関連記事含め、計61回の新聞掲載があった（2016年4月1日～2017年3月15日）

夏休み中 生活困窮家庭へ食料支援



箱詰めする缶詰などの食糧を受け取るボランティアら＝南アルプス市百々で

「子どもを笑顔に」

学校給食がない夏休みの間、子どもがいる生活困窮家庭の食生活を支援するため、南アルプス市のNPO法人「フードバンク山梨」は30日、支援食料の箱詰め作業を行った。昨夏に続き2回目の試み。同NPOの米山けい子理事長

た。乳児がいる家庭には、粉ミルクや離乳食を加えるなど、支援先の状況に合わせた物資を選んでいく。

この日は、同市百々で、中高生や市民ボランティアら74人が、コメや缶詰、レトルト食品などの箱詰め作業をした。この日は、同市百々で、中高生や市民ボランティアら74人が、コメや缶詰、レトルト食品などの箱詰め作業をした。

30日の箱詰め作業に参加した県立白根高2年の土橋裕太さん(17)は「夏に(十分)食べられない子どもがいることを知らなかった。支援を受ける子が笑顔になればいい」と話した。「ガールスカウト山梨第4団」所属の大沢瑞穂さん(31)は「支援先の家族を想像しながら物資を選んだ。今後も活動に参加したい」と語った。

同NPOでは、8月13日、20日、27日に南アルプス市内で行う箱詰め作業に参加するボランティアを募集している。また、同NPOへの食糧や資金の寄付も募っている。問い合わせは同NPO(☎055・2998・4844)へ。

【藤河匠】

フードバンク山梨 ボランティアら缶詰など箱詰め

困窮世帯児の学習支援



フードバンク 夏休みに初企画

NPO法人フードバンク山梨(南アルプス市、米山けい子理事長)は10日、同市の百々公民館で、生活困窮世帯の子どもを対象にした学習会を初めて開いた。給食がなくなる夏休み中の子どもを支援しようと、生活困窮世帯に週1回、食料を無償提供する「子ども支援プロジェクト」の一環で、子どもたちにはボランティアの指導を受けながら自習に取り組んだ。

プロジェクトの利用者を対象にしたアンケート調査で、「(子どもの)勉強の遅れが心配」「(金銭的な余裕がなく)習い事に行かせてあげられない」といった声があったことから、学習会を開くことにした。

プロジェクトの支援対象は、南アルプス市百々地区の生活困窮世帯の子どもたち。参加した小学4年の男子児童は「家だとゲームなどがあって気が散ってしまうけれど、みんなが勉強しているから集中できる。教えてくれる人もいるので分からないところを聞ける」と話した。

同法人は、学習会を継続的に開催することを検討しているほか、21日に同プロジェクトの一環で子どもバーベキュー大会を甲府市内で開く。講師や運営のボランティア、配布する支援物資を募集している。問い合わせは同法人、電話055(298)4844。

〈橘田俊也〉

象になっている市内外の218世帯から希望者を募り、この日は18人の児童生徒が参加。小学校の元教諭や塾講師ら約10人のボランティアが見守る中、子どもたちは「夏休みの友」や数学などの問題集をしたり、課題の標語作りに取り組んだりした。

参加した小学4年の男子児童は

「家だとゲームなどがあって気が散ってしまうけれど、みんなが勉強しているから集中できる。教えてくれる人もいるので分からないところを聞ける」と話した。

同法人は、学習会を継続的に開催することを検討しているほか、21日に同プロジェクトの一環で子どもバーベキュー大会を甲府市内で開く。講師や運営のボランティア、配布する支援物資を募集している。問い合わせは同法人、電話055(298)4844。

プロジェクトの支援対象は、南アルプス市百々地区の生活困窮世帯の子どもたち。参加した小学4年の男子児童は

「家だとゲームなどがあって気が散ってしまうけれど、みんなが勉強しているから集中できる。教えてくれる人もいるので分からないところを聞ける」と話した。

〈橘田俊也〉

新聞記事 (3)

2016年(平成28年)12月24日(土曜日) 富山県 富山新聞

プレゼント 困窮世帯の子に



お米やインスタント食品などを箱詰めするボランティア

南アのNPO 500世帯にお菓子など

生活が苦しい家庭に食料を行った。プレゼントの中心を届けているNPO法人「フードバンク山梨」(南アルプス市)は23日、南アルプス市寺部の若草生涯学習センター内で、子どもの生活困窮世帯にクリスマスプレゼントとして、お菓子などを発送する作業を

行なった。プレゼントの中心を届けているNPO法人「フードバンク山梨」(南アルプス市)は23日、南アルプス市寺部の若草生涯学習センター内で、子どもの生活困窮世帯にクリスマスプレゼントとして、お菓子などを発送する作業を
集まった大学生や協力企業の社員などの約100人のボランティアはこの日、サンタクロースの帽子をかぶり、普段送っている米やレトルト食品に加えて、お菓子や缶ジュースなどを手際よく箱詰めした。
同法人に協賛している製菓会社「小林製菓」(大阪市)の山田繁紀さん(51)は「箱を開けた時に子どもたちが喜ぶ姿を想像しながら丁寧に箱詰めしました」と話していた。

毎日新聞

2016年(平成28年)12月24日(土)



親子で協力して箱詰めする姿も＝南アルプス市寺部で

NPO「フードバンク山梨」発送作業

経済的に苦しい家庭を支援しているNPO法人「フードバンク山梨」は23日、子どもたちへのクリスマスプレゼントの発送作業に取り組んだ。サンタクロースの赤い帽子をかぶったボランティアが、お菓子や食料品を箱に詰めた。51世帯にクリスマスプレゼントの24日届ける。
子どもたちにクリスマスプレゼントを贈るのは昨年に続いて2回目。昨年の133世帯を大きく上回る申し込

困窮家庭の子どもたちに

クリスマスプレゼント

みがあったため、寄付もたちが服や文具などを改めて呼びかけ、必を自由で買える1000円分の「子ども商品券」も入れた。
母親と一緒に作業に南アルプス市寺部の参加した甲府市西田町の小学1年、石川菜月さん(7)は「メリークリスマスという気持ちで、お年寄りから子どもまで約100人が参加した。米やレトルト食品、ジュース、お菓子が梱包された段ボール箱を開けて仕分けたり、箱に詰め込めるなかで、少しでも温かい気持ちでクリスマスプレゼントが入った箱は重さ約10kg。子どもと話した。【藤河匠】

お菓子や食料品箱詰め

2016年12月28日(金) 朝日新聞

フードバンク 子ども支援強化

米・カレー…冬休みに500世帯へ山梨

暮らしに困っている人に食料支援をする「フードバンク」が、子どもの支援に力を入れ始めている。給食がない冬休みの家庭に食材を送ったり、塾に行かない子の学習支援スペースにおかずを届けたり、活動の現場を訪ねた。

クリスマスイブの24日、小学2年の長男(8)と保育園に通う長女(6)の兄妹と、30代の母親の3人が暮らし山梨県内の賃貸住宅に一箱の荷物が届いた。

「あ、お菓子だっ」
箱を開いたとたんお菓子の袋詰めを見つけた長女が歓声をあげた。長男は人気キャラクターのペンを見つけて「これで絵を描きたい」と目を輝かせた。子ども1人1千円の「子ども商品券」もあった。その下から出てきたのは6のお米とレトルトカレー、カップ麺といった食料。「おにぎりのついでに食べられるね。塩辛が好きだもんね」。母親が子どもたちに話した。

母親は営業の仕事をするが、出来高制で月収2万〜3万円の時もある。元々は養育費を払わない。児童扶養手当や飲食店アルバイトなどでやりくりするが、家賃支払いが遅れることもある。「食べることはきちん

とさせたい。冬休みは学童保育にお弁当を持たせねばならず、お米は本当に助かる」と話す。

学校通じ募る

荷物を送ったのは、フードバンク山梨(山梨県南アルプス市、電話055・2988・4844)。2015年の夏、給食のない長期休暇の夏休みと冬休みに子どもがいる困窮世帯を支える「フードバンク」でも支援プロジェクトをスタートした。

最初の利用者は山梨県内127世帯、子どもの数は288人。4回目となる今年の冬は、山梨県の中央、南アルプス、笛吹の3市で中学校との連携にも取り組む。学習用品や給食費な

おかず学習スペースに提供 東京・足立

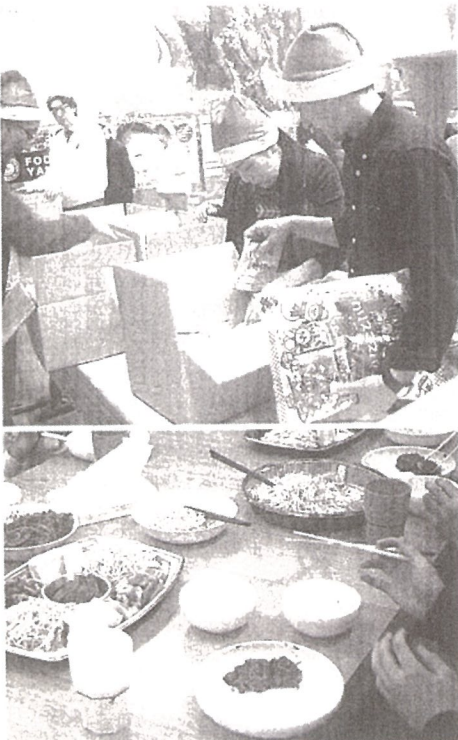
フードバンク

企業や個人から食品の寄贈を受け、支援団体や施設を通して生活に困った人に届ける取り組み。賞味期限内に届ける意義がある。日本では2002年に本格的な活動をはじめたセカンドハーベスト・ジャパンが先駆けとなった。農林水産省の14年の調査では全国で約40団体がある。その後も新団体が各地でできている。

東京都に拠点がある「セカンドハーベスト・ジャパン」(2日、電話03・58822・5371)は11月から原則週2回、足立区内に3カ所ある区運営の学習支援スペースにおかず類を無償で提供し始めた。

寄贈品を活用

寄贈食品と購入した食材を組み合わせ、ボランティアと調理師から計45人分を配る。昨年8月からおやつを提供してきたが、今年10月に協力企業などが



①フードバンク山梨「子ども支援プロジェクト」で、食料やプレゼントの箱詰め作業をするボランティアら=23日、山梨県南アルプス市
②学習支援スペースでの夕食。おかずはセカンドハーベスト・ジャパンから届いた=22日、東京都足立区

ら寄付や助成金を受け、専用の大型キッチンが都内に完成。おかずや弁当を届けられるようになった。

提供先の一つで、ビルの一画にある学習支援スペースには、中学生が通う。利用者は1日十数人。スタッフや大学生に勉強を教えてもらえるだけでなく、本を読んでもらうこともできる。「めっちゃ豪華じゃん」「ケーキもあるの? すごいね」。22日夜、ハンバーグデミグラスソース、小松菜とちくわの甘辛炒め、たらこスパゲティといった2日Jから届いた夕食を見て、テーブルを囲む中学生やスタッフから明るい声が上がった。クリスマス前なので企業から寄贈されたケーキもあった。

「居場所」として長時間過ごせるのが特徴だ。この施設では平日は午後3時から夜9時まで、土日祝日も開いていて、冬休みも年末年始を除いて午前10時から夜8時まで利用できる。委託先のNPOがごはんやおにぎり、汁物、シリアルを中心に軽食を出している。2日Jからのおかずはそれを補うものになる。区くらしこじの相談センター・橋本忠幸所長は「長期休みは給食もなくなり、十分な食事がとれない子どもがいる。(2日Jからの)食支援は栄養面を考慮してありがたい」と話す。

2日Jスタッフで、メニューを考えている管理栄養士の武田幸佳さんは「生活に困った人にお弁当を届ける活動はさらに広げたい」。不足する配達ドライバーのボランティアを募集 중이다。(編集委員・清川卓史)

子供の貧困戸惑う教師

県内の学校現場「どう支援すれば…」

朝食を食べていない、体格に合った衣服が買えない。山梨県内の学校現場で、教師が児童生徒の家庭が困窮している可能性に気付くながら、どう対応すべきか頭を悩ませている。取材に応じた教師は、「こうした子どもを学校でサポートしている素直に触れつつ、『家庭での暮らしには踏み込まない』とどちらかという思いも明かす。認定NPO法人フードバンク山梨が県内の小中学校教諭を対象に実施した調査でも、手探りで子どもの貧困に向き合う教師の苦悩が浮かんだ。

「家庭の事情」とためらい

「先生、おなかがすいた」。この学校では給食で残った食べ物があつた時に「きりを作はんを清潔保存し、児童の訴へることにした」。

給食費未納／衣服にほころび

教諭の半数が察知

県内調査

教師が子どもの貧困を感じた場面や状況

- リーズの合わない衣服を着ている
- 朝ご飯を食べずに登校し、給食を2人以上で食べる
- 寒くて猫を飼って寝ていると聞いた
- 病院に行けない
- 弁当持参の日にお金がなく弁当が作れないので「欠席させる」と連絡があった
- 給食費や学納金など集金が毎月未納になっている

(アンケートの記述から)

山梨県内の小中学校教諭を対象にフードバンク山梨が実施した調査では、2人に1人が「子どもの貧困」を感じたことがあると回答した。一方、「貧困」に対しては、「2人に1人が対応できている」と答えたのは4人に1人にとどまり、対応を模索する教育現場の美観が浮かび上がった。自由記述では「夏休み中に休

の接し方に悩んだ経験がある。熱中症予防のために児童が持ち歩いていた水筒に穴が開き、水漏れしていたため、教師は自分の娘が幼いころに使っていた水筒を贈ったという。その児童は驚いた様子を見せたが、「ほかに同じような水筒も売っていたら、今度どうすればいいのかわからなかった」。

この教諭は、経済的な困窮は経済的な困窮を解決することにはならず、教員として子どもを人々へきか悩んだという。別の小中学校に勤務する男性教諭も、貧困状態にある子ども

子どもに「学校や先生に余計なことを言わない」とつらくなる親も、家庭の事情に深く関与することについてはためらいがあるという。

貧困状態にある子どもへの対応マニュアルはなく、教師が個々のケースに応じて対処しているのが実情だ。教諭からは、学校だけで子どもの貧困に対処するのは限界があるとの指摘がある。教諭の一人は「自治体や貧困問題に取り組んでいる団体と連携しながら、物心両面で支援の仕組みを整える必要がある」と話した。

（磯村遼平）

一方で、「子どもの貧困」に対しては75%にとどまった。貧困が子どもに与える影響は「学習意欲が低い」(77%)、「自尊心定感が低い」(73%)を挙げ、貧困の連鎖につながる可能性も示唆する結果となった。

子どもは貧困を感じた場面

また、「親が遅くまで仕事をしていて、十分なコミュニケーションがとれていない」などの回答もあり、経済的な問題だけではなく、子どもの精神的な孤立をうかがわせる記述もみられた。

フードバンク山梨の山梨県子理事長は、調査結果について「子どもの貧困を目的としたりしながら、十分に対応

（前号文責 磯村遼平）

成果物

ヴァンフォーレ甲府との共同で実施したフードドライブのポスター



NPO 法人フードバンク山梨主催

サッカー観戦で フードドライブに 参加しよう！！

山梨初！！

日時：2016/7/17(日)

山梨中銀スタジアムで行われるヴァンフォーレ甲府 × 鹿島アントラーズ戦にて食品を集めます。フードドライブとは、食品を集めて困窮するご家庭を支援する活動です。皆さまのご協力よろしくお願ひします。

集めている食品

- ・レトルト食品
- ・カップラーメン
- ・お菓子
- ・ジュース
- ・缶詰

注意事項

1. 賞味期限が1ヶ月以上あるもの
2. 未開封であるもの
3. アルコール類は受付けておりません

受付日時：7/17(日) 2016明治安田生命J1リーグ 2ndステージ 第4節
ヴァンフォーレ甲府 vs 鹿島アントラーズ
受付場所：ヴァンフォーレパーク内特設ブース
受付時間：14:30~19:00

★当日場内には缶類、ビン類の持込ができませんので、ご入場前に必ず
フードドライブ特設ブースまでお持込ください。

寄せられた食品はNPO法人フードバンク山梨が行う「フードバンクこども
支援プロジェクト」で困窮する家庭を支援する活動に役立てられます。



お問い合わせ NPO 法人フードバンク山梨 山梨県南アルプス市百々 3697-2 TEL:055-298-4844
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

フードバンク子ども支援プロジェクト

NPO 法人フードバンク山梨主催



夏休み 子ども学習会



夏休みの宿題を終わらせちゃおう!! 宿題を持って大集合!!!

教師・元講師・学生さん方による学びの広場を開催します。
宿題はもちろん学校の勉強でわからないことなども教えてくださいませよ!
みんなで楽しく勉強しましょう📖
キューピー(株)の協力で食育の勉強やおいしいご飯作りの講座も行います。
みんなでお昼ご飯を作って食べましょう♪



- ◆日時：8月10日(水) 9:00~15:00
- ◆場所：南アルプス市 百々公民館 (南アルプス市百々2991)
- ◆対象：小学生~高校生
- ◆持ち物：夏休みの宿題・筆記用具・エプロン・三角巾
(お昼はみんなで作ります。) *申込み締切 7月27日(水)

参加を希望される方は、子どもさんの人数・学年(年齢)・性別を下記までお電話ください。参考書もいただけます。
フードバンク山梨からも送迎が可能です。申込みの時に送迎希望とお伝えください。後日時間などを連絡いたします。

協力 キューピー株式会社 明光義塾(株式会社 maxis エデュケーション)



申込み・問合せ
NPO法人 フードバンク山梨 055-298-4844
担当 望月・花輪・重川

裏面もみてね ⇒

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

フードバンクキッチン (バーベキュー大会)

フードバンク子ども支援プロジェクト

NPO 法人フードバンク山梨主催

フードバンクキッチン



夏休み 子ども バーベキュー大会

あそびに
来てね!

みんな あつまれ!

今年も夏休みがやってきますね♪ 楽しいバーベキュー大会を、
計画しました。みんなでサラダ作りや、さかな釣りをして、野菜
や、お肉そして釣ったお魚を、モリモリ食べちゃいましょう!!
近くの河原で川遊びもできますよ♪ お土産もあるよ♪



- ◆日時 : 8月21日(日) 10:00~15:00 雨天決行
 - ◆場所 : 甲府 右左口の里(甲府市中畑町 1132 055-266-4680)
 - ◆対象 : 19歳以下のお子さん。
*但し未就園児は保護者同伴での参加となります。
(大人の方もお子様と一緒に参加できます。)
 - ◆服装 : 汚れてもよい服
 - ◆持ち物 : 帽子・タオル・予備の着替え
 - ◆参加費 : 無料
- *申込み締切 8月12日(金)



参加を希望される方は、大人・子どもさんの人数・学年(年齢)・性別を、下記まで
お電話ください。子どもさんのみの参加は、フードバンク山梨からの送迎が可能です。
申込み時に送迎希望とお伝えください。お子さんをお迎えに伺いますので後日
時間などを連絡いたします。

協力 甲府北ロータリークラブ



申込み・お問合せ
NPO法人 フードバンク山梨 055-298-4844
担当 : 望月・花輪・重川

裏面もみてね ⇒

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

冬のフードバンクこども支援プロジェクト

認定 NPO 法人フードバンク山梨主催



GOOD
DESIGN

この冬、**1000人**の子ども
に幸せなクリスマスを



フードバンク こども**支援**プロジェクト

今年の冬も「こども支援プロジェクト」が始まります！！

期間：2016年12月まで ❄️

「先生、何か食べるものない？」

これはある小学校で、夏休みに学校へ来た児童が実際に先生に言ったひとことです。そんなひとことから、子どもの貧困を何とかしたいという先生との連携がはじまりました。

協賛  小林製薬株式会社 × 青い鳥こども支援プロジェクト

株式会社タンザワ、八ヶ岳チーズケーキ工房、株式会社テレビ山梨、特定医療法人南山会、なかえこどもクリニック、株式会社カタログハウス、株式会社エム・シー・エス、株式会社早野組、ネットヨタ甲斐株式会社、株式会社フレアス、株式会社環境ネットワーク、生活協同組合バルシステム山梨、バルシステム生活協同組合連合会、NPO 法人さくらネットワーク協会、キュービーマッチングギフト QPeace、甲府北ロータリークラブ、株式会社ジインズ、株式会社藤二誠、異業種交流会春秋会、孝進会、甲府コスモライオンズクラブ、国際ソロプチミスト山梨、株式会社サンシン精工、有限会社総合電化小林、中央コンクリート工業株式会社、東京エレクトロン山梨株式会社、株式会社藤石材、株式会社保険のアルフィー、山梨県アミューズメント施設者協会、山梨県遊技業協同組合、一般社団法人 Wakupro

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

冬の食料支援ラッピングセレモニー～みんながサンタになる日～

認定NPO法人フードバンク山梨主催 フードバンク子ども支援プロジェクト

ラッピングセレモニー



みんながサンタになる日

～困窮世帯の1,000人の子どもたちに幸せなクリスマスを！～

12月

23日(祝) 13:30～15:30

(受付13:00)

会場：若草生涯学習センターわかかさホール（南アルプス市寺部725-1）



当日は、サンタになって、
食料支援とプレゼントの
発送作業を行います。
動きやすい服装でお越し
ください。



申込み・お問合せ 認定NPO法人フードバンク山梨

055-298-4844 (平日8:30-17:30 担当：齊藤・河野)

Fax: 055-298-4885 Mail: info@fbyama.com

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

参考資料

夏のフードバンクこども支援プロジェクト

NPO 法人フードバンク山梨主催

さんしょく
3食たべられること
実は当たり前
じゃない



フードバンク こども支援プロジェクト


今年の夏も「こども支援プロジェクト」が始まります！！

期間：2016年7～8月

**あなたにも
できることが
あります。**

学校が夏休みとなり、給食を食べることができない8月は、十分な食事がとれずに痩せてしまう子どもがいます。そのようなお子さんにいる世帯へ、重点的な食料支援と、勉強会や楽しいイベントを企画します。皆さまのご支援よろしくお願いいたします。

協賛

 小林製薬株式会社 × 青い鳥こども支援プロジェクト

株式会社タンザワ、八ヶ岳チーズケーキ工房、株式会社テレビ山梨、特定医療法人南山会、なかえこどもクリニック、株式会社カタログハウス、株式会社エム・シー・エス、株式会社早野組、ネットヨタ甲斐株式会社、株式会社フレアス、株式会社環境ネットワーク、生活協同組合バルシステム山梨、バルシステム生活協同組合連合会、NPO 法人さくらネットワーク協会、キュービーマッチングギフト QPeace、株式会社ジインズ、株式会社藤二誠、孝進会、甲府コスモライオンズクラブ、国際ソロプチミスト山梨、中央コンクリート工業株式会社、東京エレクトロン山梨株式会社、株式会社藤石材、株式会社保険のアルフィー、山梨県遊技業協同組合

協力

ヴァンフォーレ甲府、甲府北ロータリークラブ、
明光義塾 (株式会社 maxis エデュケーション)

後援

山梨県、山梨県教育委員会、南アルプス市、中央市、大月市、山梨市、笛吹市、都留市、上野原市、
韮崎市、北社市、富士吉田市、山梨県社会福祉協議会、テレビ山梨、NHK 甲府放送局



フードバンク山梨 第13回フードドライブ



フードドライブとは・・・

職場やご家庭などで食品を集めご寄付頂くキャンペーンです。
寄せられた食品は当法人が支援する困窮世帯へお届けします。
皆様のご協力をおねがいします。

集荷期間：2016/12/1(木)～12/8(木)

集荷拠点

※各種体の定休日については
各団体までお問い合わせください。

★甲府市社会福祉協議会

TEL: 055-223-1061

★山梨市社会福祉協議会

TEL: 0553-22-8755

★中央市社会福祉協議会

TEL: 055-274-0294

★市川三郷町社会福祉協議会

TEL: 055-272-4179

★都留市社会福祉協議会

TEL: 0554-46-5115

★富士川町社会福祉協議会

TEL: 0556-22-8911

★身延町社会福祉協議会

TEL: 0556-62-3773

★フードバンク山梨百々事務所

TEL: 055-298-4844

★上野原市社会福祉協議会

TEL: 0554-63-0002

★笛吹市役所生活援護課 (市民窓口館)

TEL: 055-261-1905

★昭和町社会福祉協議会

TEL: 055-275-0640

★南アルプス市社会福祉協議会

TEL: 055-283-8711

★富士河口湖社会福祉協議会

TEL: 0555-72-1430

★早川町社会福祉協議会

TEL: 0556-45-3003

★南部町社会福祉協議会

TEL: 0556-64-2075

スクールフードドライブを県内の学校で実施します！(前回14校参加)

※ご寄付ください
缶詰・レトルト食品
カップラーメン・パスタ
インスタントラーメン
お茶漬け・お菓子等

注意事項

- 1.賞味期限が明記されており、1ヶ月以上あるもの。
- 2.未開封であるもの。
- 3.破損で中身が出ていないもの。
- 4.30キロ以上のお米はご寄付を検討されている方は、事前にフードバンク山梨までご連絡ください。
- 5.アルコール類は受け付けておりません。



お問い合わせ
認定NPO法人フードバンク山梨
山梨県南アルプス市百々3691-2
TEL: 055-298-4844
FAX: 055-298-4885

フードバンク子ども支援プロジェクト クリスマスボランティア募集中！



12月24日クリスマスイブに子どものいる生活困窮世帯に食品をお届けします。そのために食品の準備や梱包作業など、皆様のお力が必要です。一緒に子ども達へ笑顔をお届けませんか？



ラッピングセレモニー～みんながサンタになる日～

子ども達に届ける食品を梱包します！
日時：2016年12月23日（金）10:00～
場所：若草生涯学習センター
（南アルプス市寺部725-1）



コメタマシイ サンタが贈る米魂！～おいしいごはんを子どもたちに～

子ども達に届けるためのお米を、みんなで楽しく袋詰めします。
日時：2016年12月3日（土）10:00～
場所：フードバンク山梨飯野作業所
（南アルプス市飯野2833）



学習会補助

支援している子ども達の学習会への送迎などや、勉強を教える（学校の先生など経験のある方）ボランティアさんを募集しております。
日時：2016年1月7日（土）開催
場所：田富福祉センター（〒409-3844 山梨県中央市白井阿原301-5）
百々公民館（〒400-0214 山梨県南アルプス市百々2994）



ボランティア説明会

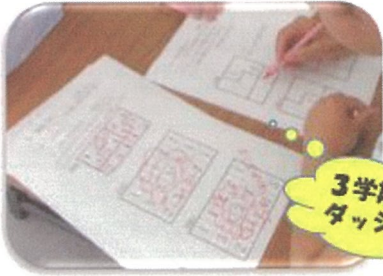
活動を知っていただくための説明会を実施いたします。ボランティアとして参加したい方は是非お越しください！
日時：2016年10/22（土）、11/12（土）、11/26（土）12/10（土）13:30～14:30
場所：フードバンク山梨飯野作業所
（南アルプス市飯野2833）

お問い合わせ先（ご質問など、お気軽にお問い合わせください）
認定NPO法人フードバンク山梨
〒400-0214山梨県南アルプス市百々3697-2
電話 055-298-4844（平日8:30～17:30）メール info@fbyama.com

冬休み学習支援「一緒に勉強しようよ！」南アルプス市・中央市会場の2部作成

認定NPO法人フードバンク山梨主催

フードバンクこども支援プロジェクト 学習支援 いっしょに勉強しようよ！



3学期にスタート
ダッシュ！！

～冬休みの宿題を終わらせちゃおう～
元教師・講師・学生さん方による学びの広場を開催します。冬休みの宿題はもちろん、学校の勉強でわからないことなども教えてもらえますよ。書きぞめもできます。みんなで楽しく勉強をしましょう！

簡単なお昼ご飯を一緒に作り、みんなで食べましょう。
キュービー(株)、
富士吉田キュービー(株)、
(株)カナエフーズ富士吉田工場
のご協力を受けています。

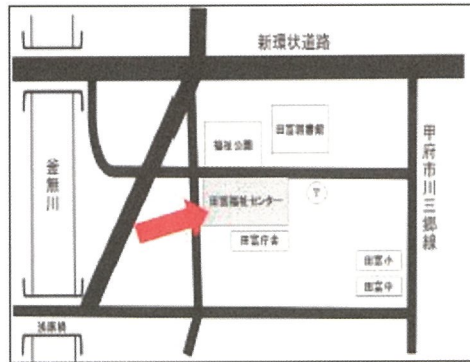


1月7日(土)

9:00～15:00

- ・ 場所: 田富福祉センター
(中央市臼井阿原301-5)
- ・ 対象: 小学生～高校生
- ・ 持ち物: 冬休みの宿題・教科書(教えてもらいたい教科)・習字道具・筆記用具
エフロン・三角巾など

☆お昼は、フードバンクで用意しますよ。



参加を希望される方は、同封の返信はがき
でお申し込みください。

*** 申込み締切 12月20日(火)**

(電話での申し込みもOKですよ。その時は、子どもさんの
人数・学年・性別を教えてください。)

交通手段がない方は、お申し込みの時にお伝えください。



お申込み・お問合せ 認定NPO法人フードバンク山梨

055-298-4844 (平日 8:30～17:30)

担当: 花輪・深澤・河野



独立行政法人福祉医療機構

社会福祉振興助成事業

(1) 夏休み学習支援 参加者アンケート

フードバンクこども学習会 アンケート



今日の学習会(がくしゅうかい)はどうでしたか?
感想(かんそう)を書(か)きましょう。先生(せんせい)へのメッセージや
お昼ご飯(おひるごはん)のこと、楽しかったことなどなんでもいいです。
絵(え)を描(か)いてもいいですよ。

今日のフードバンク学習会
はたのしかたです。
ベトナムがたさんで
たからです。キャベツのすし
がおいしかったです。キャベツ
のやいたのがおいしかったです。
おせんせいがつくたベトナム
はたのしかたです。

プリントがせんぶできて、すごかったね!!

早くできるのでおどろいてしまいました。❤️ 2016.8.10

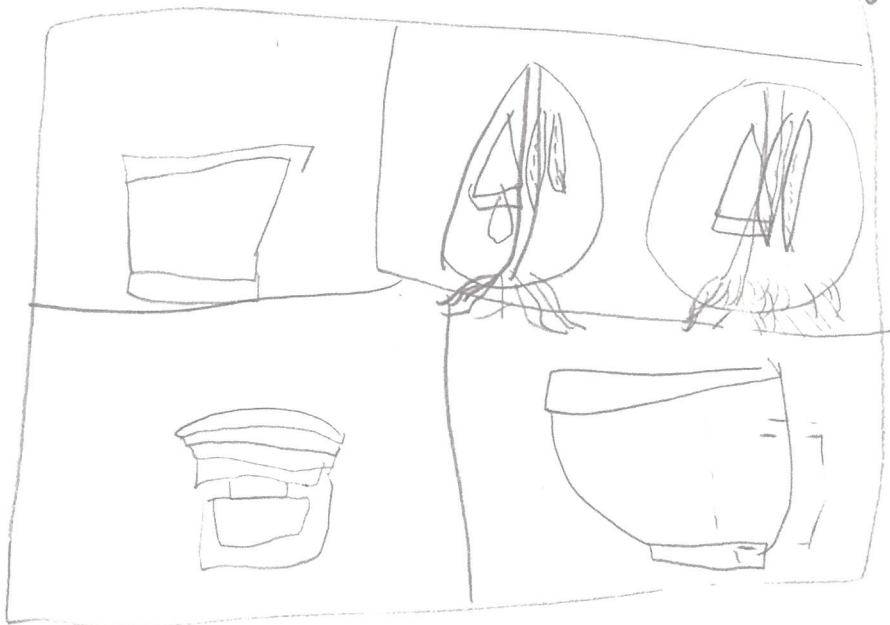
おやすみもげんきてすごしてくださいね!!

フードバンクこども学習会 アンケート



今日の学習会(がくしゅうかい)はどうでしたか?
感想(かんそう)を書(か)きましょう。先生(せんせい)へのメッセージや
お昼ご飯(おひるごはん)のこと、楽しかったことなどなんでもいいです。
絵(え)を描(か)いてもいいですよ。

先生とべん強できてよかったです。
キャベツのしんのスーパおいしいです。



フードバンクこども学習会 アンケート



今日の学習会(がくしゅうかい)はどうでしたか?
感想(かんそう)を書(か)きましょう。先生(せんせい)へのメッセージや
お昼ご飯(おひるごはん)のこと、楽しかったことなどなんでもいいです。
絵(え)を描(か)いてもいいですよ。

今日の学習会は家でやるよりも進みました。
ちょっと進んでうれしかったです。
昼食では自分の好きなポテトサラダが
でたのでよかったです。
ポテトサラダを食べておいしかったです(お
弟の)もこれはよかったですと思いました。
あと先生の教えてもらったからすずめたと思
いました。

2016.8.10

(1) 冬休み学習支援 参加者アンケート



フードバンク子ども支援プロジェクト 学習会アンケート



今日の学習会の感想(かんそう)をかきましょう!

宿題(しゅくだい)は終わりましたか?

先生へのメッセージやお昼ご飯のこと、
楽しかったことなど、なんでもいいです。



絵(え)を描(か)いてもいいですよ。

今日まで
勉強して
きました



レポートを書いてあげて、お礼を言いました。
お礼の手紙は、みんなが書いておいたんです。
自分のお昼ご飯の写真をあげて、お礼を言いました。
宿題は自分からやってあげて、先生が褒めてくれて、
お礼の手紙です。お礼の手紙のプリントを先生にやって
あげました。



みんなが楽しかったです。
お礼の手紙がみんなが参加したんです。



(2) 冬休み学習支援 参加者アンケート



フードバンク子ども支援プロジェクト 学習会アンケート



今日の学習会の感想(かんそう)をかきましょう!

宿題(しゅくだい)は終わりましたか?

先生へのメッセージやお昼ご飯のこと、
楽しかったことなど、なんでもいいです。



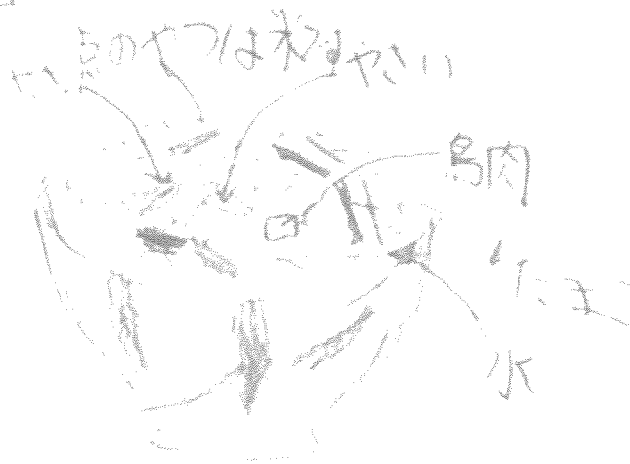
絵(え)を描(か)いてもいいですよ。

今日も
楽しく
勉強
しました



終わりました。お昼ご飯はとてもおいし
かったし、はじめて食べたお粥は、とても
おいしかったです。

絵



お粥

強鬼の
とたみ
習字を
やった
とても楽し
かったです。





認定 NPO 法人フードバンク山梨

〒400-0214 山梨県南アルプス市百々 3697-2

TEL 055-298-4844

FAX 055-298-4885

E-mail info@fbyama.com

HP www.fbyama.com